



静岡県水循環保全条例の制定 ～健全な水循環を目指して～

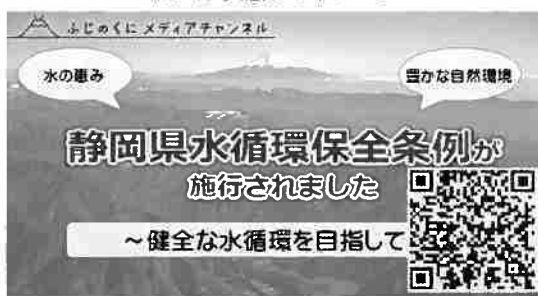


令和4年7月1日、静岡県水循環保全条例を施行しました。近年、地球温暖化等の気候変動や開発行為等の社会経済活動により、水循環に変化が生じ、水害の発生や生態系の変化などの問題が懸念されています。こうした中、令和3年度末に本条例を制定し、水循環が県民にもたらす恵みを将来にわたり享受できるよう、健全な水循環の保全を目指しています。

条例には、県・事業者・土地所有者・県民それぞれの責務や県が行う施策を定めており、令和4年度内に水源の保全のために特に適正な土地利用を図る必要がある「水源保全地域」を指定します。令和5年度からは、当該区域内で土地取引や開発行為を行う際に県への届出書の提出が必要となります。



県が行う施策のイメージ



ふじのくに静岡県庁チャンネル掲載の紹介動画

地下水流動量解析調査を実施し、地下水の利用可能量等を把握！



地下水は湧水の影響を受けにくく、年間を通して比較的安定して利用できる貴重な資源ですが、無限に存在するわけではなく、地下水の状態を把握し、適切に利用することが重要です。

県は、「静岡県地下水の採取に関する条例」に基づき、取水基準を設けるなど地下水の適正利用と保全を図っていますが、近年の気候変動等による地下水への影響が懸念されています。

そこで、令和3年度に気候変動等を考慮した地下水流動量解析調査を大井川及び相良・御前崎地域において実施し、地下水の利用状況と利用可能量等を把握しました。今後、西部地域と東部地域でも実施し、県内の地下水を適切に管理するための基礎資料として活用します。



令和3年度地下水流動量解析調査位置図



解析結果の一例



県立浜松南高等学校が全国野生生物保護活動発表大会環境大臣賞受賞！



県立浜松南高等学校自然科学部生物班による「カワラハンミョウを保護動物に！防潮堤を故郷の原風景に！」の活動が、令和3年度第55回全国野生生物保護活動発表大会で環境大臣賞を受賞しました。

中田島砂丘のカワラハンミョウの保護活動として、実際に飼育して保全方法を考え、浜松土木事務所と協働で防潮堤の自然環境保全活動や環境調査、除草活動などを行っています。

故郷の原風景を守りたいという気持ちで、高校生として環境保全のために何ができるのか、生徒が自ら考え、計画、活動をしています。

また、多くの人に現状を知ってもらうために、企業や自治体が行う清掃活動や科学館のイベントなどで説明するなど広報活動にも力を入れています。



環境大臣賞受賞（記念撮影）



カワラハンミョウ成虫調査（捕獲作業）

「森は海の恋人」水の循環研究会の開催



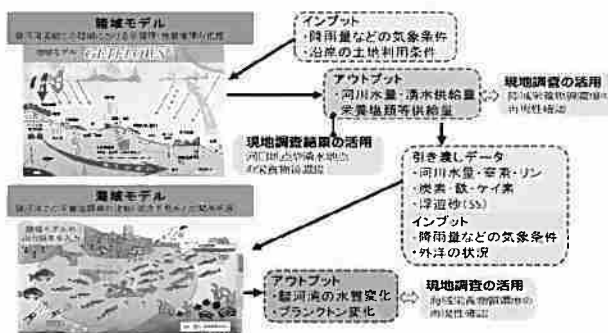
県では、令和元年度から3年度まで「森は海の恋人」水の循環研究会を設置し、南アルプスを源流とする富士川・大井川水系と駿河湾沿岸部までをケーススタディとして、陸や海的环境変化が海の生態系に与える影響の検証に取り組みました。

研究会では、森林等の陸域と駿河湾の栄養塩類の挙動等を再現するシミュレーションモデル「（愛称）：スルガベイ・シミョレータ」を構築・分析し、陸域の生活排水、森林、畑地等が、駿河湾のプランクトン生産を支える栄養物質の大切な供給源であることが科学的に明らかになりました。

研究会では、森林等の陸域と駿河湾の栄養塩類の挙動等を再現するシミュレーションモデル「（愛称）：スルガベイ・シミョレータ」を構築・分析し、陸域の生活排水、森林、畑地等が、駿河湾のプランクトン生産を支える栄養物質の大切な供給源であることが科学的に明らかになりました。

令和3年度はこの研究成果の普及活動の一環として、梅ヶ島地域において、用宗港の若手漁業関係者等による森づくり活動を実施しました。

今後は、駿河湾の生態系の保全とその恵みの持続的な利活用に向けた研究の促進や県民へ学習会等を通じて周知し、森・里・川・海のつながり踏まえた保全等の実践活動につなげていきます。



スルガベイ・シミョレータの構成



用宗港の若手漁業関係者等による森づくり活動



南アルプス学会の設立



ユネスコエコパークに登録される南アルプスは、日本有数の山岳公園であり、その稜線部を中心とした核心地域には、氷河期からの遺存種をはじめ、守るべき希少な生態系が残る「世界の宝」です。

一方、南アルプスは、その急峻さや奥深さから、学術的に生態系や環境の変化を追跡し、記録することが困難な場であり、また、山間地の人口減少に伴い環境保全の担い手も不足し、地域社会を支えるなりわいそのものの存続も危ぶまれています。

県では、このような課題を克服するため、南アルプスの自然環境の保全と、それを支えてきた地域コミュニティ・文化の継承をも視野に入れた研究活動の活性化を図り、学術研究を体系化し、世界に語る国際的な「南アルプス学」として発展に寄与するため、令和4年2月15日に「南アルプス学会」を設立しました。



天空のお花畑と主峰赤石



ライチョウが生息する世界の南限にあたる南アルプス

「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」の活動



美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会では、自主プロジェクト「静岡の海の森づくりプロジェクト」の一環として、かつて相良沖に広く繁茂していた海藻「サガラメ」の藻場を回復させる活動を支援するとともに、子供たちに、海の生き物の命を育む海の森・海藻の役割や大切さを伝える小学生向けの体験教室の開催やSNSを活用した情報発信を実施しています。

また、海洋環境や水産資源に対する関心が高まる中、海洋環境保全の取組を強化するため、令和4年3月に「静岡県美しく豊かな海保全基金」を創設しました。



しずおかの海PR大使



海の森づくり体験教室
(オンライン)

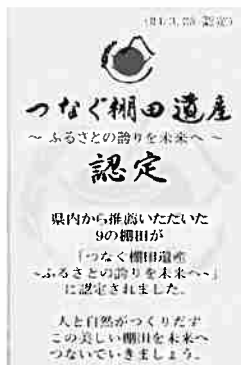


9つの棚田が「つなぐ棚田遺産」に大臣認定されました



棚田が荒廃の危機に直面していることから、棚田地域の持続的発展及び国民生活の安定向上に寄与することを目的として、令和元年8月16日に「棚田地域振興法」が施行されました。

令和3年度には、ポスト「日本の棚田百選」となる「つなぐ棚田遺産」の認定制度が国により創設され、本県では9箇所の棚田が大臣認定されました。



| 市 町 | 棚田名 | 市 町 | 棚田名 |
|------|-------------|-----|-----------------|
| 松崎町 | 石鹿（いしか）の棚田 | 栄田町 | 千坂（せんがま）の棚田 |
| 伊豆市 | 松崎（あけぼの）の棚田 | 浜松市 | 大常安（おほとくりやす）の棚田 |
| 伊豆市 | 茅野（かやの）の棚田 | 浜松市 | 久留安木（くるとよぎ）の棚田 |
| 沼津市 | 北山（きたやま）の棚田 | 浜松市 | 日根（ひねがし）の棚田 |
| 富士宮市 | 平成（ひらせい）の棚田 | | |



つなぐ棚田遺産

ふじのくに美農里プロジェクト「一宮の水と環境を守る会」が 関東農政局長表彰で最優秀賞受賞！



ふじのくに美農里プロジェクト（多面的機能支払交付金）は、現在、県内で232の組織が活動しています。

令和3年度に、「一宮の水と環境を守る会（周智郡森町一宮、平成20年設立）」が、関東農政局長表彰において最優秀賞を受賞しました。

当地域は森町の市街地近郊に位置し、農家のみならず非農家と協働で、水路の泥上げや草刈り等による農地の保全活動や小学生を対象とした生き物調査、沿道へのコスモスの植栽など地域の環境保全活動に励んでいます。また、遊休農地を活用して幼稚園と連携しトウモロコシやサツマイモの栽培や米づくり体験等も行い、幅広い世代で多彩な活動を継続している取組が評価されました。



大学の講師を招いた生き物調査



園児による農業体験（サツマイモの栽培）